

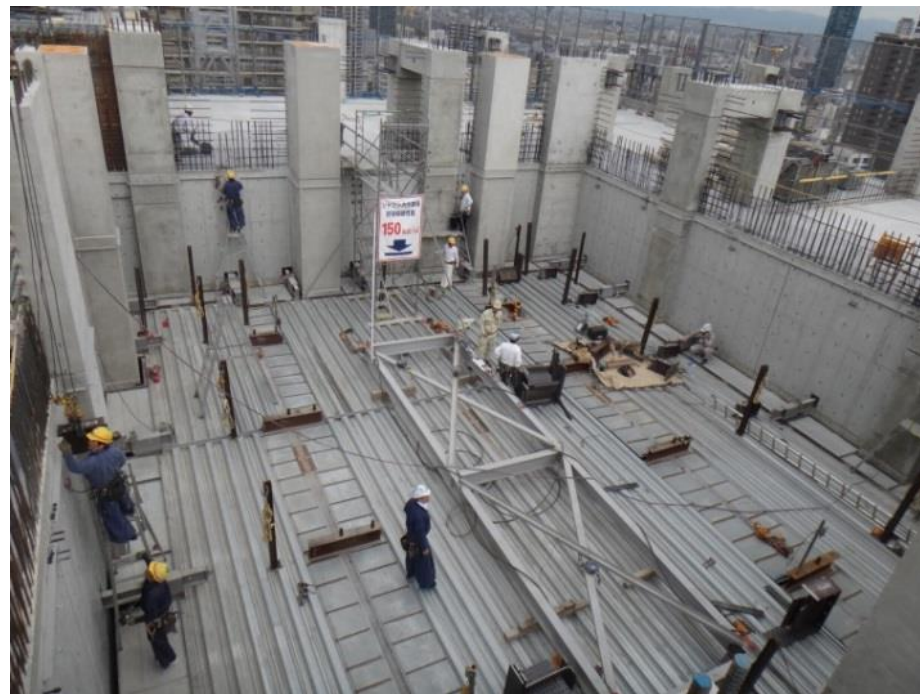
シャフト壁作業の見える化

建物中心部にエレベーターパーキングのシャフト（15.3m×18.1m×高さ92m）が配置されており、そのシャフト内の壁の施工方法において足場を架けるのではなく、シャフト全面にふさぐ仮設作業床を設置した。これにより作業の進捗状況や作業状況が目視でき、墜落のおそれなくなったと同時に安全管理を行いやすくなった。



作業床を外した状態

シャフト壁構築のために足場を架設すると、足場やメッシュシートで作業状況が見渡せなくなる。



作業床を設置した状態

シャフト全面をふさぐ作業床を設置することにより、開口部からの墜落の恐れがなくなるとともに、作業状況が見渡せて安全管理が行いやすくなった。